

PACIS 2015 Singapore

Japan Association for Information Systems (JPAIS)

総務担当役員 妹尾 大

1. カンファレンスの概要

Pacific Asia Conference on Information Systems (PACIS 2015) が、2015年7月5日から9日にかけて、シンガポールのマリーナベイサンズで開催された。

PACIS は、国際情報システム学会 (AIS: Association for Information Systems) のアジア太平洋地域 (Region3) 内で毎年開催されるカンファレンスであり、今回で第19回を迎えた。

会場となったマリーナベイサンズは、3棟のタワービルを船形状の屋上で連結した外観を持つ総合リゾートであり、天空プールやカジノでも有名な、シンガポールを代表するホテルである。ホテル棟およびショッピング棟に併設されているサンズ・エキスポ・コンベンションセンターの3階の一角がカンファレンスの主会場であった。巨大で豪華な施設と、頻繁な軽食サービスが強い印象を残した。

カンファレンスの参加費は700米ドルと、これまでに実施されてきた過去のPACISに比べて倍近い高額設定だったにもかかわらず、世界各国から約450名の参加者が集まり、カンファレンスのテー

マ「IT and Open Innovation」を中心に知見を交換した。プログラム委員の説明によると、トータルで641件の投稿があり、採択率は約40%であったという。テーマ別にみると、ソーシャルメディア、システム実装、人間行動が投稿数のトップ3だったという。

2. 基調講演

2件の基調講演があった。カンファレンス2日目の朝は、シンガポール情報通信開発庁 (IDA; Info-comm Development Authority of Singapore) の長官補佐 (Assistant Chief Executive) である Toh Chai Keong 氏が講演し、データサイエンスの重要性の高まりについて指摘した。

カンファレンス3日目の朝は、韓国先端科学技術大学院大学 (KAIST) 教授の Jae Kyu Lee 氏が講演し、情報通信技術のポジティブな面に目を向けて発展を促していこう、という「Bright ICT Initiative」のコンセプトについて説明した。Lee 氏は現在の AIS 会長を務めている。

3. PACIS 2015 の日本への招致

カンファレンス4日目 (7月8日水曜) の昼には、アジア太平洋地域 (Region3) の理事会が開かれた。この理事会への日本からの出席者は、次の4名であった。

平野雅章氏 (JPAIS プレジデント、経営情報学会前会長、早稲田大学)

木嶋恭一氏 (経営情報学会会長、東京工業大学)

岸真理子氏 (経営情報学会副会長、法政大学)

妹尾 大 (JPAIS 総務担当役員、東京工業大学)

この理事会において、2018年PACISの開催場所



マリーナベイサンズの外観



日本からの参加者の一部で集合写真

が決定する。今回立候補したのは、横浜（日本）とバリ（インドネシア）の2箇所であった。AISの日本支部であるJapan Association for Information Systems (JPAIS)の平野プレジデント、そしてインドネシア支部であるAISINDOのSusantoプレジデントが、それぞれ10分間のプレゼンテーションを行い、理事たちの前で開催候補地の魅力をアピールした。

平野プレジデントの発表は、これまで日本の情報システム学の国際化に尽力してこられた真鍋龍太郎氏（経営情報学会元会長）への謝辞から始まり、横浜（日本）の訴求ポイントを次のようにまとめた。

- ・国際会議にはあまり顔をださない日本の情報システム研究者（1500人）との出会い
- ・和食、日本酒、伝統文化（茶道、禅）
- ・鎌倉、富士山、京都への好アクセス

ライバルのインドネシアは、写真をふんだんに見せながら、バリ島の観光やビーチアクティビティを強気に押し出してきた。どちらに決まってもおかしくないような雰囲気は理事会に流れていたため、プレゼンテーション後は席をはずして会議室の外で待つように求められた日本側関係者は、すこしドキドキしながら決定を待った。会議室に呼び入れられ、

横浜に決定した旨が伝えられると、平野プレジデントの顔に安堵の表情が広がった。

今回のカンファレンスには欠席であったが、招致準備に奔走した田名部元成氏（JPAIS 財務担当役員、横浜国立大学）、および開催地候補として京都、大阪、神戸の各都市の検討をしてくださった有馬昌宏氏（兵庫県立大学）をはじめとする経営情報学会関西支部運営委員会構成メンバーの各位に深い感謝の意を示したい。

4. 今後に向けて

研究発表会場では、多様な年齢層の参加者による活発な意見交換が行われていた。特に目立ったのは、来年の開催国である台湾からの参加者の数と発言の多さであり、自国開催に向けての意気込みが感じられた。たとえば、博士課程所属学生には積極的に発表経験を積ませ、質疑応答の場面でおぼつかない英語に換えて中国語でコミュニケーションをとりうとした学生には、あくまで英語を使うよう手厳しく指摘する光景も見られた。

総じて、今回の参加者には、アジア太平洋地域が全世界の情報システム研究を先導していく、という共通見解があるように思われ、積極的な貢献意欲が感じられた。経営情報学会員をはじめ、日本の情報システム研究者もこの波に乗るべきだろうという感想を持った。

今後のPACIS、ICISの開催予定

- ICIS2015 （米国 フォートワース 12/12-16）
- PACIS2016 （台湾 嘉義 6/27-7/1）
- ICIS2016 （アイルランド ダブリン 12/11-14）
- PACIS2017 （マレーシア ランカウィ 7/17-22）
- ICIS2017 （韓国 ソウル 12/10-13）
- PACIS2018 （日本 横浜 開催日未定）